

エゾシカ捕獲の効率化を目指した取り組み ～自動撮影カメラによる動向調査結果の活用～

網走西部森林管理署西紋別支署

加藤 春香

寺田 崇晃

小林 和史

取り組みの背景・目的

西紋別支署管内の滝上町では、春先のエゾシカによる農林業被害を防ぐため、2月から3月にかけてエゾシカの一斉捕獲活動を実施しています。

国有林ではその活動に協力するため、エゾシカ捕獲連携事業として、平成29年度から林道除雪及び餌による誘引を実施しています。この事業と併行して、エゾシカの行動を把握し、捕獲効率を上げることを目的に自動撮影カメラによるデータの収集及び分析を行いました。



自動撮影カメラ本体

取り組みの内容

自動撮影カメラによるデータ収集

自動撮影カメラ6台を林道脇に設置し、平成29年7月から継続的にデータの収集を行っています。得られたデータから、狩猟期の初期と終期でエゾシカが撮影される時間帯に偏りがあることがわかりました。カメラを設置していた2年間とも、**10月から11月までは夜間の撮影頻度が高く、2月から3月は日中の撮影頻度が高くなっている**という傾向が見られました。さらに、餌を設置してからのエゾシカの動向を調べると、**3～4週間の期間において撮影頻度が最高**になっていました。また、餌を設置した箇所では昼夜に関係なくエゾシカの群れが撮影されました。



「撮影頻度」について

月毎、カメラ毎に自動撮影カメラの稼働日数が異なるので、比較を行うために撮影頻度を用いました。左のグラフは各時刻に撮影された頭数を月毎の稼働日数で除した後、餌を設置していない箇所のカメラのデータを平均したものです。

捕獲



一斉捕獲

一斉捕獲を含む捕獲活動では、平成29年度に20頭、平成30年度に11頭のエゾシカを捕獲しました。

調査結果報告会

報告会では、地元自治体や猟友会と調査結果を情報共有し、餌の種類や設置場所、誘引効果について意見交換を行いました。



報告会の様子

今後の展開

継続して自動撮影カメラによるエゾシカの動向調査を行い、データの蓄積から情報の精度を高めるとともに、捕獲活動から得られた知見を加えて猟友会と情報共有することで、効率的な捕獲に繋げるため取り組みを進めていきたいと考えています。



設置した餌に集まるエゾシカ